

令和7年度 青森県 英語教育改善プラン

目標

児童・生徒に求められる資質・能力が継続的に着実に育まれるよう、「小・中学校教科充実支援事業」を実施し、外国語教育担当教員に対する直接的な支援や外国語教育における小中連携強化につながる取組を推進する。

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①児童の英語を用いた言語活動の割合(授業中50%以上の時間、言語活動)が増加。

(R5:92.1%)

②R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、英語の授業が好き、大切だという回答が増加。

好き (R5:72.8⇒R6:73.1%)

大切 (R5:90.9⇒R6:92.7%)

未だ改善が必要な点

①外国語教育における小中連携について、継続して取り組む必要がある。

(R5:68.8%)

②学習到達目標の設定、公表、達成状況把握(パフォーマンステスト)について、継続して取り組む必要がある。

パフォ (R5:89.8%)

2. 要因分析

①②①②AOMORI小・中学校外国語教育ワークショップを実施することによって小・中連携の必要性が周知され、校種間の指導内容に対し、理解が深まったと考えられる。

①②①②AOMORI ENGLISH PACKAGE(A-PACKAGE)の活用について周知し、その活用を促進したことで、授業改善につながりつつある。

①外国語教育における小中連携の取組(指導方法や指導内容の共有)に地域(学区)間の差が引き続き見られる。年度末の人事異動によって小・中学校間の連携体制について再度見直す必要がある。

②学習到達目標の設定、公表、達成状況把握の意義や、「言語活動を通して」指導することについて(特に、その具体)の理解について継続しなければ改善に至らないと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

児童に求められる資質・能力が継続的に着実に育まれるよう、外国語教育担当教員に対する直接的な支援や外国語教育における小中連携強化につながる以下の取組を推進する。

①②①②AOMORI小・中学校外国語教育ワークショップの実施
第1回～第3回：全県(オンライン開催)

事前アンケートを基にしたテーマ別ワークショップ

・テーマに関する講義・ワークショップ

・AOMORI ENGLISH PACKAGE(R6.3作成)の活用

第4回：教育事務所ごと(集合開催)

小・中混合グループ(1中学校区)での協議・ワークショップ

・小中連携の進捗状況について

・学習内容、指導方法についての情報交換

①②①②小学校外国語教育充実支援訪問の実施

・各学校の要請に応じて随時訪問し、授業参観や協議、授業づくりについての意見交流等を行う。

①②文部科学省「教師の英語力・指導力向上のための実践的なオンライン研修」への参加促進

・教師自身が英語を用いてコミュニケーションを図るモデルとなり、英語での言語活動が充実するよう、参加を促進する。

②英検ESGの実施促進

・学習到達目標の達成状況把握の改善(パフォーマンステストの充実)につなげるため、実施を促進する。

令和7年度 青森県 英語教育改善プラン

目標

児童・生徒に求められる資質・能力が継続的に着実に育まれるよう、「小・中学校教科充実支援事業」を実施し、外国語教育担当教員に対する直接的な支援や外国語教育における小中連携強化につながる取組を推進する。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6: 35.8% ⇒ R7: 50%)

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①CEFR B2以上の英語力を有する教員の割合が微増。
(R5:28.9%⇒R6: 29.5%)

②R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、書くことにおいて言語活動を充実させ、授業改善を図ろうとする様子が見られる。
聞くこと (県:85.8% 全国:83.8%)
読むこと (県:87.8% 全国:85.6%)
話すこと [やり取り] (県:72.9% 全国:68.8%)
書くこと (県:87.3% 全国:85.7%)

未だ改善が必要な点

①CEFR A1以上の英語力を有する生徒の割合が低下。
(R5:41.4%⇒R6:35.8%)

②外国語教育における小中連携について、継続して取り組む必要がある。
(R5:68.8%)

③R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、話すこと [発表] において言語活動を充実させる必要がある。
話すこと [発表] (県:77.3% 全国:82.4%)

2. 要因分析

①②①②AOMORI小・中学校外国語教育ワークショップを実施することによって小・中連携の必要性が周知され、校種間の指導内容に対し、理解が深まったと考えられる。

①②①②AOMORI ENGLISH PACKAGE(A-PACKAGE)の活用について周知し、その活用を促進したことで、授業改善につながりつつある。

②外国語教育における小中連携の取組(指導方法や指導内容の共有)に地域(学区)間の差が引き続き見られる。年度末の人事異動によって小・中学校間の連携体制について再度見直す必要がある。

③学習到達目標の設定、公表、達成状況把握の意義や、「言語活動を通して」指導することについて(特に、その具体的理解について)継続しなければ改善に至らないと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

生徒に求められる資質・能力が継続的に着実に育まれるよう、外国語教育担当教員に対する直接的な支援や外国語教育における小中連携強化につながる以下の取組を推進する。

②①②③AOMORI小・中学校外国語教育ワークショップの実施
第1回～第3回：全県(オンライン開催)

事前アンケートを基にしたテーマ別ワークショップ

・テーマに関する講義・ワークショップ

・AOMORI ENGLISH PACKAGE(R6.3作成)の活用
第4回：教育事務所ごと(集合開催)

小・中混合グループ(1中学校区)での協議・ワークショップ

・小中連携の進捗状況について

・学習内容、指導方法についての情報交換

①②①②③中学校外国語教育充実支援訪問の実施

・各学校の要請に応じて随時訪問し、授業参観や協議、授業づくりについての意見交流等を行う。

①①②③文部科学省「教師の英語力・指導力向上のための実践的なオンライン研修」への参加促進

・教師自身が英語を用いてコミュニケーションを図るモデルとなり、英語での言語活動が充実するよう、参加を促進する。

①英検IBAの実施促進

・学習到達目標の達成状況把握の改善(パフォーマンステストの充実)につなげるため、実施を促進する。

令和7年度 青森県 英語教育改善プラン

本県生徒の主体的・対話的で深い学びの実現が図られるよう、生徒、教員の英語力、教員の指導力やICT活用能力の向上を図る。

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6: A2以上 48.6%、B1以上 14.0% ⇒ R7: A2以上 55%、B1以上 15%)

目標

☒ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①CEFRA2・B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合の増加
(R5:46.2%⇒R6:48.6%)

②授業における、生徒の英語による言語活動の割合の増加
(R5:30.7%⇒R6:40.5%)

①英語担当教員の授業における英語使用状況
(R5:19.5%⇒R6:29.1%)

②スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合
(R5:41.6%⇒R6:45.8%)

2. 要因分析

①各校における英語力を高めるための授業の工夫や、県の事業や学校独自の取組による英語を活用する機会の創出とその機会の有効活用が要因と考えられる。
②教員の指導力に係る研修やICT活用コンテンツの共有、また、学校訪問等においてICTを活用した生徒の言語活動を促したことが要因と考えられる。

①生徒が授業中に英語を使う場面を多くするために、英語による指示や説明を生徒が理解するのにかかる時間を省略していると考えられる。
②パフォーマンステストにおいてICTの活用は進んでいるが、生成AI等の有効な活用方法についての共有が進んでいないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①グローバル人材育成の推進
・グローバル人材育成事業等を通して、生徒、教員に海外における英語活用機会を提供し、グローバルな視点で物事を捉え課題を発見し、解決に向けて自身の考えを発信できる能力等の国際的素養の育成、それに向けた指導力の育成を図る。また、その成果を共有する。
②教員の指導力の向上
・高校支援事業を活用して外国語教育の充実を図っている学校を訪問したりオンライン会議に参加したりして、教員の指導力向上や生徒の英語力向上のための授業づくり等が行われるよう通年で指導・助言する。
・文部科学省「教師の英語力・指導力向上のための実践的なオンライン研修」への参加を促進する。
① ② ICT、生成AI活用の推進
・学校と連携してICTを活用した授業を実施し、その取組例を共有する。
・英語の4技能・5領域をバランス良く学習できるアプリの導入を希望する学校に提供し、生成AIとの会話練習や生成AIを活用したライティングの添削等で利用してもらう。また、ALTが常駐していない学校や生徒間の学力差が大きい学校においても、英語による授業実施の一助としてもらう。
・学校訪問等でICTや生成AIの活用を促していく。

青森県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		55	46.2	55	48.6	55		60		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		10	10.3	15	14.0	15		20		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		50	30.7	50	40.5	50		50		50	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		50	41.6	50	45.8	50		50		50	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	50	28.8	50		50		50		50	
		達成状況の把握（％）	50	46.2	50		50		50		50	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		100	91.1	100	87.9	100		100		100	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		50	19.5	50	29.1	50		60		70	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	41.4	50	35.8	50		55		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		65	58.7	65		70		75		80	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		100	83.1	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	99.3	100		100		100		100	
		公表（％）	40	52.8	60		70		80		90	
		達成状況の把握（％）	70	70.8	80		90		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		40	28.9	40	29.5	40		40		40	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		60	44.1	60		65		70		75	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	86.6	100		100		100		100	
		公表（％）	50	41.3	50		60		70		80	
		達成状況の把握（％）	70	71.7	80		90		100		100	